

『DOBOT AudiR8LMS』

Yoshiaki Katayama

Roberto Merhi Muntan

Seiya Jin



26<sup>th</sup>  
RACES  
GT300 Since2021



**大会概要**

2023年 SUPER GTシリーズ 第4戦

**大会名称**

2023 AUTOBACS SUPER GT Round4 FUJI GT 450km RACE

**開催日時**

8月5日 土曜 (予選) 8月6日 日曜 (決勝)

**開催サーキット**

富士スピードウェイ (1周 : 4.563km)

所在地 : 静岡県駿東郡小山町中日向694

**同時開催レース**

2023 FIA-F4 選手権 第5戦・第6戦

Porsche Carrera Cup Japan 2023 第7戦・第8戦

**主催**

株式会社GTアソシエーション

富士スピードウェイ株式会社

FISCOクラブ (FISCO-C)

**公認**

国際自動車連盟 (FIA)

一般社団法人 日本自動車連盟 (JAF)

**認定**

株式会社GTアソシエーション

**後援**

経済産業省/国土交通省/自由民主党モータースポーツ振興議員連盟/静岡県小山町/御殿場市/裾野市/

公益社団法人 静岡県観光協会/小山町観光協会/一般社団法人 御殿場市観光協会/

一般社団法人 裾野市観光協会



◆ 参戦体制

■ ドライバー



片山 義章  
YOSHIAKI KATAYAMA

生年月日 1993年11月13日  
出身地 愛知県  
身長 168cm  
体重 69.3kg  
血液型 RH+O



ロベルト メリ ムンタン  
ROBERTO MERHI MUNTAN

生年月日 1991年3月22日  
出身地 スペイン  
身長 178cm  
体重 70kg  
血液型 RH+O



神 晴也  
SEIYA JIN

生年月日 2000年10月30日  
出身地 大阪府  
身長 175cm  
体重 70kg  
血液型 Rh+O

■ 監督 太田 雅文  
Masabumi Ota

■ スタッフ チーフエンジニア Mattia Oselladore  
クルーチーフ 小倉 啓悟  
チーフメカニック 片岡 恵人

■ スポンサー

DOBOTジャパン株式会社	エルアイピーリゾート株式会社
ザーレン・コーポレーション株式会社	城東電機株式会社
TON E株式会社	ブランデュース株式会社
高新自動車学校	株式会社リブレ
ニチアス株式会社	見田工作株式会社
エバー株式会社	株式会社PACIFIC RACING TEAM
コスモ開発株式会社	朝日金属株式会社
株式会社安藤・間	有限会社大和工業
岡田金属株式会社	有限会社ます徳
株式会社ジョイフル設備	アクセル有限会社
カトー機械株式会社	ORIC
株式会社デジテックエイチピー	SPIN OFF
株式会社マイティミズタニ	
MIDTOWN BBQ	
ウエスタンデジタル合同会社	
青山エレベーター株式会社	

## ◆ 予 選

天候 晴れ

コース状況 ドライ

気温 33℃ (GT300クラスQ1-A開始時)

路面温度 45℃ (GT300クラスQ1-A開始時)

予選開始 15時20分 (GT300クラスQ1-A組)



5月に開催された第2戦の富士大会で、今季初入賞を果たしたTeam LeMansのDOBOT Audi R8 LMS。さらなる上位を目指すチームは、Aドライバーの片山義章、Bドライバーのロベルト・メリ・ムンタン、Cドライバーの神 晴也の3人体制で、100周、450kmの長丁場に挑んだ。

GT300クラスでは、全戦でA、Bの2組に分かれてそれぞれ10分間のQ1を行い、各組の上位8台がQ2に進出する。富士スピードウェイで行われる第4戦には27台が参加し、#6 DOBOT Audi R8 LMSはA組でQ2進出を狙う。

**#6 DOBOT Audi R8 LMS**

**予選結果：5位 (予選Q1ベストタイム：1分37秒767/片山選手) (予選Q2ベストタイム：1分36秒982/ロベルト選手)**

朝から真夏の強烈な日差しが照りつける富士スピードウェイ。予選が行われる土曜日の午前中には公式練習が行われ、#6 DOBOT Audi R8 LMSは3番手タイムをマークし、仕上がりの良さをアピールする。

15時20分にコースインとなったQ1のA組は片山が担当。3周目に1分37秒780をマークした片山は、5周目に再度タイムアタックに挑み、セクター1、セクター2で自己ベストを更新。3周目のタイムをコンマ013秒縮める1分37秒767を叩き出し、A組5番手でQ1突破を果たした。

16時13分からのQ2では、ロベルトが3周目に1分36秒982を記録。これにより#6 DOBOT Audi R8 LMSは今季最上位のクラス5番グリッドを獲得、初表彰台獲得に向けて期待が膨らむ予選結果となった。



## ◆ 決勝

天候 雨／くもり

コース状況 ウェット

気温 27℃ (スタート時)

路面温度 33℃ (スタート時)

決勝レース開始 13時45分

レース予定周回数 100周 (約450km)

#6 DOBOT Audi R8 LMS (片山&ロベルト&神選手)

決勝結果：3位 (所要時間：3時間45分16秒525=93周消化／ベストラップ：1分39秒304=ロベルト選手)



朝の青空から一転、10時前からの雨によりウェットコンディションとなった富士スピードウェイでは、13時45分から決勝レースが行われた。

雨は上がったものの、安全を確保するためにセーフティカー先導でレースはスタートした。

クラス5番手の片山は一時7番手にポジションを落とすが8周目には5番手に順位を戻す。そのまま快走を続ける片山だったが、一部のライバルがウェットタイヤからスリックタイヤに交換するため続々とピットへ向かう。

#6 DOBOT Audi R8 LMSも12周が終わったところでタイヤ交換を行うが、出遅れたことで18番手まで順位を落としてしまう。その後、片山は懸命に追い上げるものの、クラストップとの差は40秒以上の開きがあり、勝負権を失ったかと思われた。

ところが、33周目、GT300クラスのマシンが1コーナー先で車両火災に見舞われたことからセーフティカーが導入される。

17番手の#6 DOBOT Audi R8 LMSとトップとの差は一気に16秒台に縮まる。片山は47周目には13番手までポジションを上げ、ロベルトにマシンを託す。

クラス19番手でコースに復帰したロベルトは反撃を開始。59周目には入賞圏内の10番手に順位をアップする。

その直後、GT300クラスのマシンが13コーナーで車両火災に見舞われ、セーフティカー導入後、レースは赤旗中断に。その間に雨が降り出し、各車がウェットタイヤに履きかえたあとレースはセーフティカー先導で再スタートした。

67周が終わったところでセーフティカーランが解除され、レースは終盤戦に。ロベルトは果敢な走りで81周目には表彰台圏内の3位までポジションをアップ。ただ、燃料がぎりぎりだったことから、82周目を終えたところでピットストップを行い、燃料補給に加えて、ウェットタイヤからスリックタイヤに変更し勝負に出た。この作戦が功を奏し、11番手でコースに復帰したロベルトは、ウェットタイヤのまま走る上位勢を次々にオーバーテイク。

そして5番手で迎えた93周目のファイナルラップに、さらに2台をかわして3位でフィニッシュ。Team LeMansは、Audi R8 LMSでGT300クラスに参戦後、初の表彰台を獲得した。

念願の表彰台を獲得したTeam LeMans、第5戦の鈴鹿ではさらなる高みを目指す。

### 片山 義章 選手のコメント

3位表彰台はうれしいけれど、これで満足はしていません。

僕のステイントで、ウェットからスリックへのタイヤ交換の判断がもう少し早かったり、ロベルトのステイントで追加の給油が必要なかったりすれば、優勝できたレースでした。次の鈴鹿はサクセスウェイトが増えますが、今度こそ優勝を狙っていきます。

### ロベルト・メリ・ムンタン 選手のコメント

初表彰台はとてうれしい。18位まで後退したあとに3位まで大きく順位を上げられたのも良かった。これはチームの力が上がってきた証拠だと思う。マシンのフィーリングも良くて、終盤にどんどん順位を上げている瞬間はとても楽しかった。

ただ、もう少し上手くやれば優勝できたレースだっただけに悔しい思いもある。次の鈴鹿はサクセスウェイトが増えるので簡単じゃないことはわかっているけれど、事前のテストで良い感触を掴んでいるので十分表彰台は狙えると思う。

### 神 晴也 選手のコメント

今回は僕の出番はありませんでしたが、先輩2人の走りや考え方、チームの戦略など、これまで知らなかった部分を見ることができたのは、大きな収穫でした。次戦以降も、いつでも乗れるよう準備をして臨むつもりです。

### チームコメント

今回チームとしてGT300の20レース目でした。マティアとアウディのエンジニアも来日し、アウディジャパンとしても沢山のお客様が来て下さり、いつも以上に結果にはこだわりました。

土曜午前の公式練習から上位のタイムが出せていたので、それなりの手応えを感じていました。

結果は3位ですが、もう少しで2位に手が届くところでのゴールでした。片山のステイントで、タイヤをウェットからスリックに替えるタイミングが遅れ、それで一気に順位を落としてしまいました。

しかし、ロベルトが担当する終盤には、良いタイミングでタイヤ交換ができ、同じレース中に挽回できて良かったと思います。今回、表彰台に上がったことでチームの士気はさらに上がりました。マシンのセットアップもうまくはまっていますし、みんなのハードワークが実を結びだしてきています。

これからサクセスウェイトが増えますが、それにうまく対応して、あとふたつ上のポジションを獲れるよう頑張ります。



